

生野中学校区「義務教育学校生野未来学園」開校に向けた説明会 開催結果

1 日 時 令和3年7月31日(土) 午後7時から午後8時15分

2 場 所 大阪市立林寺小学校講堂

3 参加者 23名

4 出席者

(学校園)

松永林寺小学校長

(教育委員会事務局)

樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、大川生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理、川楠生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部教育政策課生野区教育担当課長代理

5 説明概要

- ・説明資料に沿って説明を行った。

6 質疑、意見等の概要

(参加者A)

- ・上の子が在校生、下が未就学児で、二人とも支援が必要で、個別に相談したい場合、どこに相談すればよいのか。
- ・上の子のときは、直接林寺小に相談させていただいたが、生野未来学園はどなたに相談すればよいのかわからない。

→ (回答)

- ・10～11月頃に行われる就学時健康診断で、心配なことを個別に相談していただける。林寺小学校区にお住いであれば、今年度は、林寺小学校で就学児健康診断を受けることになる。在校生のお子さんのことは、そこで併せて相談されてもよいし、担任の先生にご相談されるのもよい。

(参加者B)

- ・通学路に関して、これからは遠くなる。今まで一人で行かせていたが、集団登校はできないのか。当面の間、住んでいる地域ごとに、待ち合わせて、一緒に登校するということはできないのか。

→ (回答)

- ・通学路に関しては、これまでより遠くなるのでご心配な方も多いと思う。保護者や地域の代表の方々からご意見をいただく学校適正配置検討会議の安全対策部会において、登校方法について具体的なことを検討していく予定。
- ・細かいことは検討中であるが、地域ごとに集まったり、誘い合わせて登校する等、今後、改めて考え方を示させていただく。

(参加者C)

- ・登下校で、子どもに携帯電話を持たせるのはダメなのか。携帯ならGPSが付いている。登校はよいが、夜も暗くなる時期等、下校の時が心配。

→ (回答)

- ・携帯電話については、子どもに持たせている学校もある。登校時の携帯電話の携帯を認めるなら、学校として管理のルール化の検討も必要になる。ご意見として預からせていただく。

(参加者C)

- ・今後の予定で、9月10月の学校公開や学校説明会などの日にちはもう決まっているのか。仕事があるので早めに言っていただけると助かる。

→ (回答)

- ・9月9日(木)に開催することが決まっている。時間帯など詳細については、学校からお手紙を配布させていただく。

(参加者D)

- ・学校行事の件で、令和4年だけ6年生に修学旅行がないということが、どうしても納得できない。1年や7年生は入学式や一泊移住がある。他の学校の子もたちと新しい学校で一緒になって交流を深めるためと説明していたが、それは6年生も同じではないか。6年生も4校の子どもが集まるわけで、仲間づくり、思い出づくりといった面でも、やはり、移行期間の6年生というのは大事なかなと思う。

→ (回答)

- ・特に7年生は、中学校の生活になっていくということもあり、先生方もガラッと変わる。
- ・6年生については、林寺小学校の先生が希望すれば、生野未来学園に配属されるように配慮したいと考えており、また、平成30年度には4小学校でしっかり交流行事を行った経験もある。しかし、それ以降は新型コロナの影響で実施できず、ご意見のように、4月当初から、いろんな形で仲間づくりを進めていく工夫をしていく必要がある。
- ・また、泊を伴う行事は積立金との兼ね合いもあり、新しい学校でどういうシステムにしていくかという点で、二泊移住と修学旅行の両方に行くとなると、その分、金額もかかることになる。
- ・ただ、仲間づくりについては、しっかりやっつけていかなければならない。

(参加者E)

- ・1年生と7年生の入学式は同じ日に行うのか。式は一緒にするのか。別々なのか。

→ (回答)

- ・今のところ、同じ日にしようと考えている。生野未来学園は、西生野小と生野中の校地にできるので、講堂が2つあることから、前期課程の入学式の後、時間をおいて、後期課程の入学式を行うことを考えている。

(参加者F)

- ・小学校低学年が、あの通学距離を歩くのはかなり大変だと思う。これまで、距離の問題でスクールバスは出せないと説明されてきたが、新しい学校で新しい取り組みをされることだし、他の自治体でも小学校でスクールバスが出るというニュースを聞いたりする。年々、夏も暑くなっている中、通学途中で熱中症も気になる。特に、新1年生の親御さんとかはすごい気になると思う。

→ (回答)

- ・大阪市の基準で、通学距離が2km以内であれば、通学に関する措置に補助は出ない。生野区の学校再編でも通学距離が遠くなることは多々あるが、いずれも2km以内に収まっており、スクールバスを走らせるとは言えない。
- ・距離の問題だけではなく、通る場所も増えるので、しっかり安全対策を取ることや、重くなっている荷物の負担の軽減など検討している。
- ・また、社会実験で走っているA I オンデマンドバスが軌道に乗れば、その中でできる手立ても検討する必要があると認識している。

(参加者G)

- ・「児童いきいき放課後事業からの引率」に関して、登校時は、従来通りの見守り活動なのか、事業者による見守り活動なのか。
- ・2つ目に、この事業者というのを、いま「児童いきいき放課後事業」を実施している事業者と同じ事業者だと思う方もいると思うので、この事業者については、これから公募して決めていくということを明確に説明していただきたい。

→ (回答)

- ・「いきいきからの引率」事業の見守り活動は下校時間に行う。登校時間帯の見守りは、これまでと同じように地域、PTAにご協力いただきたいと思います。
- ・また、2点目に関して、事業者は公募するが、公募にあたっては大阪市の入札参加資格や類似事業の経験を有しているかなど、条件がある。地域活動協議会が、法人格を取得したり、類似事業の経験を有していれば、応募は可能だが、子どもの安全に関わることなので、いろんな条件を厳格に定めて事業者を公募する。

(参加者H)

- ・「いきいきからの引率」に関して、林寺小学校に戻ってから、子どもを待機させる場所はどこになるのか。
- ・また、義務教育学校になることで、確かに良いということが、かなりわかってきた。そのなかで、どうしても悪いこともあると思う。その中の一つとして、小学校であれば、6年生という最上級生の経験ができなくなり、それはかなりマイナスになると思うが、代わりにどこで補えるのか等、考えを聞かせてほしい。

→ (回答)

- ・林寺小は学校跡地として残る。どの部屋が待機場所になるか、まだ調整中であるが、午後5時までに林寺小学校に子どもを連れ帰り、部屋で午後5時から午後6時まで見守っている間に、保護者に迎えに来ていただく。

- ・2点目について、6・3制であれば、6年生でリーダー性を育むという考え方だが、新しくできる義務教育学校は9年間をどう区切って子どもを育てていくか、という発想で、4・3・2制とする。6・3制と比較して、6年生でリーダー性育むという観点は少ないかもしれないが、逆に、4年生をファーストステージの最高学年、7年をセカンドステージの最高学年と位置付けている。もちろんサードステージの9年生も最高学年であり、6年生ではなく、9年間でリーダー性を育むという考え方である。
- ・その中で、大事にしたい、戦略的に他の学校にはないことをやっていけるのは、セカンドステージの段階である。6年生の終わりや7年生のはじめの段階でも、9年間で見れば途中であり、体験型学習など、もっと攻め込んだものをそこに持ってくるということも可能である。他にはない、密度の濃いことができ、教員の方も、今まで積み重ねてきたことをもとに、子どもにチャレンジさせてみよう、というような計画が立てられるのではないかと考えている。
- ・9年間トータルで見れば、義務教育学校でリーダー性が育っていないということにはならないと確信している。